

西表島に着いた初日、宿の近くをみんなで散策していたら、いきなりすごいものを見ることができた。狩りバチが巨大なクモを狩っているシーンに出くわしたのだ！

狩りバチはその名の通り、「狩りをするハチ」のことだ。ずっとその狩りの場面を見たいと思っていて、Vol.58で紹介した通り、2年前に高尾山でオオモンクロクモバチの狩りを見れてその夢が叶った。オオモンクロクモバチの狩りのシーンも、自分よりも大きなクモを狩る姿に度肝を抜かれた。だが、今回のこの「キオビクモバチ」は段違いだ。なんと相手が日本最大のクモ「オオジョロウグモ（大女郎蜘蛛）」だったのだ！オオジョロウグモは、とにかくデカイ！からだのサイズは約5cm、脚を伸ばすと20cmにもなる。網のサイズは最大2mにもなるらしい。“日本最大”の称号は伊達じゃない。この化け物のような巨大オオジョロウグモは、なんとなんと、クモの巣にかかったコウモリや鳥まで食べてしまうらしい（※）。恐ろしすぎ…。

そんな、コウモリや鳥さえ食べてしまう巨大グモを狩ってしまうハチがいるなんて、驚きだ。ちなみに、海外にはあのタランチュラを狩ってしまうハチ（オオクモバチ。タランチュラホークとも呼ばれている）もいるらしい。

狩りバチが獲物を狩っている瞬間は、たまたま出会うしかないの、見たくたってなかなか観察できるものではない。西表島に行って初日に、こんなすごい場面に出会えて本当に運が良かった。

以前知り合った『狩蜂生態図鑑』（とんでもない図鑑なので一読すべし）の著者のタナカさんに連絡してみたところ、「奄美でキオビを観察したが、オオジョロウグモを狩るところは私も見たことがない。羨ましい！」と返信が来た。ビギナーズラックでとんでもないシーンを見てしまった…。

※卒業生のクモ好きのリホは、鹿児島県の喜界島で「オオジョロウグモがコウモリを捕食していた」という観察事例を論文として発表している（大型のクモがコウモリや鳥を食べていることはじつは世界各地で観察されていて、そう珍しいことではないらしい。ただ、リホが見つけた例では、オオジョロウグモが捕食していたコウモリが、それまで喜界島にはいないと考えられていたアブラコウモリだったため、初記録の論文となった）。

参考文献：木元 侑菜, 勝原 涼帆, 馬場 友希, 巨 悠哉 (2021), 喜界島からのアブラコウモリ (コウモリ目: ヒナコウモリ科) の初記録, 哺乳類科学61(1): 23-27
田中 義弘 (2012), 狩蜂生態図鑑 ハンティング行動を写真で解く, 全国農村教育協会



オオジョロウグモも肉食のハンターだ。なんと網に引っかかったコウモリや鳥を食べていたという目撃例もあるぐらい凶暴だ。これだけ長い手足をかいぐって巨大なクモを狩ってしまうハチがいるなんて…すごすぎる！



オオジョロウグモは手足を広げると人の顔ぐらいある。ソウシは日本最大のクモを見れて大興奮だった。写真はメスで、オスはずっと小さい。オオジョロウグモは奄美大島以南に生息する。



オオジョロウグモを腕に載せるリホ 2018年



日本最大のクモ・オオジョロウグモを狩るキオビクモバチ 7月26日
狩りバチが自分よりもずっと大きい獲物を狩っている迫力のワンシーンにたまたま出会った。巨大なオオジョロウグモはハチの毒針に刺されて麻酔していて、抵抗するすべもなくだらんとしている。クモバチの仲間は、クモを狩って巣穴に運び込み、1匹の獲物に1つの卵を産み付ける。1匹の子のために物凄いエネルギーを使っている。